

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林環境保全ふれあいセンター

平成20年度 活動報告(年報)



目 次

はじめに	
自然再生への取組	1
森林環境教育への支援	28
森林ボランティア活動への支援	34
グループ対抗里山テジカメ選手権	35
その他	37

はじめに

「森林環境保全ふれあいセンター」は林野庁の出先機関で、全国に11箇所設置されており、国有林野を活用し、NPO法人等が行う自然再生活動、生物の多様性の保全等や教職員その他の者が行う森林環境教育等に対して、技術的指導その他の支援等の取り組みを行っています。

箕面森林環境保全ふれあいセンターは、平成16年4月の設置後5年経ち、新たな活動にも積極的に取り組みました。

新たな活動として、①ニホンジカによる森林被害対策指針作成のため、三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯で、関係機関・団体と連携し、ニホンジカの生息状況や森林被害の現況把握調査及び森林被害対策を実施、②森林環境教育優良事例集作成のため、各府県や森林ボランティア団体、森林管理署等が行っている森林環境教育手法や教材を収集・整理し、教育関係者による選定会議の開催、③各森林管理署等において、森林ボランティアリーダー養成スクールを実施する際の参考となるようなモデルカリキュラムを作成するため、養成スクール修了生へのアンケート調査及び分析等に取り組みました。

また、継続の活動として、①箕面国有林（大阪府箕面市）において、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、里山の再生と生物多様性の向上に資するための「箕面体験学習の森」の整備方針の作成及び本事業の一環である「オオクワガタの棲める森づくり」のためのクヌギ、コナラの苗木を小学校、幼稚園、ボランティア及び市民の方などにより育成、②里山の再生・整備活動や森林環境教育に主眼を置き、「身近な森林（もり）の再発見」をテーマとして、学校、森林ボランティア、企業、家族などグループを対象とした「里山デジカメ選手権」の開催、③小・中学校の初任教諭の方々を対象とした森林環境教育セミナーの開催等に取り組みました。

平成20年度もほぼ計画どおりに活動を行うことができました。これも関係者の皆様のご理解とご協力によるものであり、心から厚く御礼申し上げます。

平成21年3月

箕面森林環境保全ふれあいセンター所長 本田茂光

自然再生への取組

「箕面体験学習の森」整備事業

趣旨

大阪府の北部に近接する箕面国有林を含む北摂地域は、かつて台場クヌギを仕立てて菊炭を生産するなど、活発な里山の利用が行われていましたが、現在では、スギ、ヒノキの人工林が大半を占めています。

当センターでは、平成18年度まで里山再生推進モデル事業を実施し、具体的な里山再生メニューの決定及び里山整備、伐採木の利用、里山再生ガイドラインの作成等に取り組んできました。

これらの取組結果も踏まえ、里山モデル林を含む地域において、積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材の利用としての菊炭づくり体験等、森林環境教育のフィールドとして活用するとともに多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指し、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づく里山整備に取り組んでいるところです。

また、平成20年度から、展望台周辺のヒノキ、スギを伐採し、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林に転換することによって「オオクワガタの棲める森づくり」を目指しています。実施に当たっては、箕面市内の小学生、幼稚園児、ボランティア等、住民参加により、クヌギ、コナラ等のドングリから育て、平成22年春に、その苗木を植樹することとしています。

なお、当該事業の実施にあたっては、京都大阪森林管理事務所や森林ボランティア団体と連携・協力を密にするとともに、当該事業に関連した森林環境教育プログラムの普及啓発などの取り組みとの有機的な連携を図ることとしています。

事業内容

1 場所

大阪府箕面市箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）

2 内容

- (1) 「箕面体験学習の森」整備事業検討委員会等の開催
- (2) 「箕面体験学習の森」の整備方針の作成
- (3) 「箕面体験学習の森」中心部において「オオクワガタの棲める森づくり」を実施
- (4) 植生調査の実施



「箕面体験学習の森」整備事業位置図



凡例	
	野外活動ゾーン
	林業体験ゾーン
	里山体験ゾーン
	青空教室エリア



す ~オオクワガタの棲める森づくり~



「箕面体験学習の森」 整備イメージ

野外活動ゾーン

目的：ネイチャーゲーム、ツリーハウス等の野外活動を通じて森林にふれあってもらえるゾーンとして整備
 内容：野外活動を実施するための芝生広場、森林の整備及びツリーハウスなどの設置



林業体験ゾーン

目的：人工林での作業体験を通じて、森林・林業を理解してもらうためのゾーンとして整備
 整備：間伐、下刈、シカ防護対策等の実施方法の検討及び実践



歩道

歩道

歩道

歩道

温度差等測定



歩道

青空教室エリア

各ゾーンにおいての実践を踏まえて、ふりかえりの学習を行うエリア。



下層植生の変化等



森を診るポイント

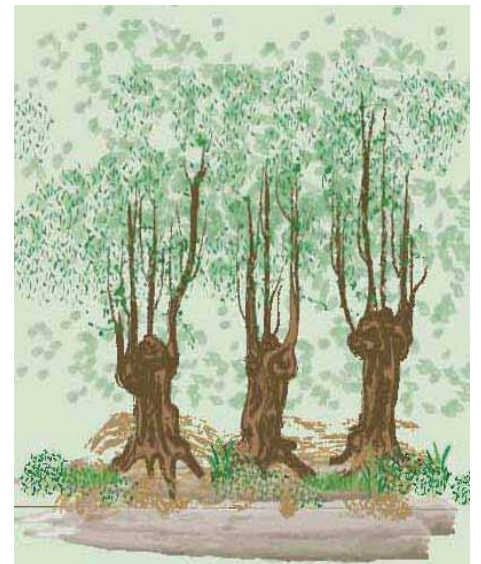
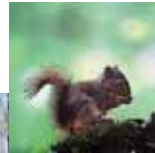
炭焼き体験
 (菊炭)



里山体験ゾーン

目的：地域の特色を示す里山モデル林「箕面ながたにの森」を中心に、かつての北摂地域の森林文化及び多様な動植物を観察、学習するゾーンとして整備を行う。

整備：地域の特色を示すクヌギを中心とした広葉樹への樹種転換、昆虫類、ホンドリス、モリアオガエルなどの良好な生息域としての森林を再生するための検討。動植物への影響を考えた観察路の検討、整備及び伐採木を活用した炭焼き及びシイタケ栽培



台場クヌギ

「箕面体験学習の森」整備事業検討委員会

委員会・部会委員（五十音順、敬称略 ◎は座長及び部会長）

氏名	所属・職名	委員会	整備部会	利活用等検討部会
奥 敬一	(独)森林総合研究所関西支所 主任研究官	○	○	
加賀康弘	箕面市教育センター 所長	○		○
鎌谷計三	清水谷をまもる会 代表	○		○
木山雅博	明治の森箕面国定公園ビジターセンター 所長	○		○
小林孝道	大阪府北部農と緑の総合事務所 緑地整備課長	○	○	○
服部 保	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	◎	◎	
山下宏文	京都教育大学 教授	○		◎
山本 博	NPO法人 日本森林ボランティア協会 事務局長	○		

注：整備方針作成後、整備方針作成部会を整備部会に名称変更

整備方針(案)の検討・作成(第1回整備方針作成部会)

4月22日(火)、整備方針(案)を作成するための部会を箕面国有林で開催しました。

部会においては、「計画期間が3年となっているが、それ以降も継続的な整備が必要と考える」、「苗木育成に必要な資材については、購入するかどうかも含めて検討が必要」などの意見があり、これらを踏まえた検討の結果、

モデル的により多様性のある森林とするため、展望台周辺などのヒノキとスギを伐採し、地域特性を考慮したクヌギ、コナラ、エドヒガンなどの広葉樹を、地元の小学校や森林ボランティアなどの協力を得ながら育成することなどを柱とした整備方針(案)を作成しました。

伐採後の植栽に関する体制整備について検討 (第1回利活用等検討部会)

5月19日(月)、利活用等検討部会を箕面国有林で開催しました。

部会では、一般市民のニーズを踏まえた整備の推進と、整備後の利活用のあり方について検討しています。

伐採後の植栽については、関係ボランティア団体や小中学校に協力を依頼すること、事業実施に関するアンケート調査は、夏休み期間中に園内(箕面体験学習の森)、園外(勝尾寺園地、ビジターセンター、箕面大滝、昆虫館)で実施することになりました。



「箕面体験学習の森」の整備方針固まる (第1回検討委員会)

4月22日の整備方針作成部会、5月19日の利活用等検討部会の開催を受けて、5月29日(木)に箕面国有林において、平成20年度第1回目の「箕面体験学習の森」整備事業検討委員会を開催しました。

服部保委員長をはじめ7名の委員の出席により、整備方針について議論が交わされました。

方針に基づく整備にあたっては、各部会の開催などにより利用者のニーズを反映させていくこととなりました。

整備方針の概要は下表の通りであり、①ヒノキとスギの一部を広葉樹へ転換、②枝条等のチップ化・散布、③説明用パネルの整備、④炭焼き体験施設の整備などを行うこととなりました。

整備方針の概要

- 1 里山体験ゾーン**
ヒノキとスギを一部伐採し、箕面に分布するクヌギ、コナラ、エドヒガンなどの広葉樹へ樹種転換
- 2 林業体験ゾーン**
景観確保のための伐採及び枝条等のチップ化・散布
- 3 野外活動ゾーン**
歩道整備及び樹名板設置等
- 4 青空教室エリア**
パネルの整備等
- 5 その他**
炭焼き体験、森林内と森林外の温度差の測定体験



会議後エドヒガンの種子拾い

ドングリからの苗木育成とアンケート調査の分析 (第2回利活用等検討部会)

10月3日(金)、第2回利活用等検討部会を箕面国有林において開催しました。

クヌギ、コナラのドングリからの苗木育成については、「小学生等だけでなく保護者や「箕面自然休養林部会」にも協力要請してはどうか」との意見があり、事務局から小・中学校や箕面自然休養林部会に要請することとしました。なお、この取組を「オオクワガタの棲める森づくり」(別添1)と呼び広くPRすることとなりました。

また、「箕面体験学習の森」の整備を進める上で、利用者のニーズを把握し、具体的な整備に反映させるために実施したアンケート調査の分析・検討の結果、本事業の実施について概ね賛同が得られたことから、アンケート調査結果(別添2)も踏まえ、自然観察や森林の機能を学べるコース設計や提案を検討することとなりました。

利活用等検討部会からの報告内容等について検討 (第2回検討委員会)

10月14日(火)、第2回検討委員会を箕面国有林において開催しました。

委員会では、利活用等検討部会からの報告や小学校等への要請の状況等について検討を行い、「ドングリを拾うだけとなっている幼稚園には育成も行ってもらうよう要請すべき」、「植えた後のメンテナンスも考慮して事業を進めることが必要」、「植えた区域に標柱等設置できるようにするべき(学校等毎に1本)、山での育成過程でもかかわりやすい環境を作るべき」などの意見があり、これらの意見は今後の事業に反映させていくこととなりました。



平成21年度事業計画(案)・植栽樹種配置(案)の作成 (第2回整備部会)

2月25日(水)10時から第2回整備部会を明治の森箕面国定公園箕面ビジターセンター会議室において開催しました。

平成21年度の事業計画(案)について検討を行い「植栽する樹種の育成について結実時期等にばらつきがあることから年間を通じて採取に努めるべき」、「昆虫ベッドの設置においては、イノシシやモグラの害から守るため地中に防護のための工夫が必要」等の意見が出されました。

植栽樹種配置(案)については、「台場クヌギ仕立てとするエリアを歩道沿いに配置すべき」との意見があり、平成21年度事業計画(案)を含め午後の委員会で報告することとなりました。

平成20年度の総括及び平成21年度事業計画の決定 (第3回検討委員会)

2月25日(水)午後、第3回検討委員会を明治の森箕面国定公園箕面ビジターセンター会議室において開催しました。

平成20年度事業の総括では、「オオクワガタの棲める森づくり」を中心とした活動に重点を置いて取り組んだ結果、クヌギやコナラなどの苗木育成において、箕面市内の小学校、幼稚園、一般市民の参加が予想を上回る成果が得られたことなどについて報告を行いました。

平成21年度事業計画については、「パネル等は子供もわかりやすい内容とすべき」、「クヌギ、コナラの伐採周期は8~15年程度がよい」、「報道機関への情報提供をもっと行うべき」などの意見があり、平成21年度事業計画を決定しました。

オオクワガタの棲める森づくり

目的

当センターでは、当該地域の国有林において積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験等、子ども達を対象とした森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、「箕面体験学習の森」の整備を開始しました。

整備は主に、「箕面体験学習の森（エキスポ'90みのお記念の森）」の中心にある展望台の周辺において、かつての森を再生するため、ヒノキ、スギ林からクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林への転換を目指しています。

この取組は、住民参加型とし、小学生、ボランティア等により、苗木の育成、植栽、下刈等の一貫した取組を継続して行うこととしています。

特に、森林環境教育の一環として、箕面市内の小学生及び幼稚園児に苗木の育成から植栽を体験してもらい、①「森林」が豊かな体験を提供する場であること、②「森林」が正しい知識を得る場となること、③「森林」が生活や日本人とのかかわりをつくりあげていく対象となること等「気づかせるきっかけづくり」となることを目指しています。

実施場所

箕面国有林「箕面体験学習の森（エキスポ'90みのお記念の森）」

参加団体等

- 箕面市内の小学校、幼稚園
- 箕面市内の住民
- 大阪府
- 京都大阪森林管理事務所
- 箕面市内のボランティア団体
- NPO法人日本森林ボランティア協会
- 近畿中国森林管理局
- 箕面森林環境保全ふれあいセンター



オオクワガタやドングリの話を熱心に聞いている児童



ドングリ拾いに熱中



ドングリの鉢への埋め込みの説明を聞いている児童



クヌギ、コナラのドングリを埋め込んだ植木鉢

「オオクワガタの棲める森づくり」への参加状況

- ①箕面市立とよかわみなみ幼稚園（園児74名）
 - ・平成20年10月21日（火） 吹田市青少年野外活動センター（※1）
 - ・平成20年10月30日（木） とよかわみなみ幼稚園（※2、3）
- ②箕面市立豊川北小学校（4・5年生164名）
 - ・平成20年10月24日（金） 学校近辺（※1、2、3）
 - ・平成20年10月29日（水） //
- ③箕面市立萱野北小学校（1・2年生116名）
 - ・平成20年10月28日（火） 箕面国有林（※1、2、3）
- ④箕面市立せいなん幼稚園（園児33名）
 - ・平成20年11月20日（木） 幼稚園（※2、3）
- ⑤箕面市立かやの幼稚園（本年は職員のみ実施）
 - ・平成20年11月16日（日） 幼稚園（※2、3）
- ⑥箕面市立とどろみ幼稚園（園児20名）
 - ・平成20年11月19日（水） 幼稚園（※2、3）
 - ・平成20年11月30日（日） 幼稚園（※2、3）
- ⑦箕面市立なか幼稚園（園児50名）
 - ・平成20年12月4日（木） 幼稚園（※2、3）
- ⑧箕面市立箕面小学校（児童、保護者150名）
 - ・平成21年1月31日（土） 小学校（※3）
- ⑨「みどり 生き生き みのお 生き生き 体験フェア」（主催：箕面市等）
 - ・平成21年3月20日（祝）、21日（土）（※3） 200名分

（注）※1はドングリ拾い

※2は植木鉢への埋め込み

※3は育成

「箕面体験学習の森」等の利用者を対象としたアンケート調査結果

アンケートの目的

平成19年度より「箕面体験学習の森」整備事業に取り組んでおり、平成20年5月に「箕面体験学習の森整備方針」を策定しました。

今後「箕面体験学習の森」の整備を進める上で、一般市民等の利用者(園内)及び利用見込者(園外のニーズを把握し、具体的な整備に反映させるため、

- ①来訪者の特色：現在どういった人が、どのような目的で訪れているのか
 - ②認知度：「エキスポの森」について、どれくらい知られているか
 - ③広葉樹への樹種転換への反応：現在のヒノキを中心とした林相から、箕面地域のかつての林相（落葉広葉樹林）へ樹種転換を図ることへの反応
 - ④利用者のニーズ：「箕面体験学習の森」として整備する体験型学習において、一般市民の要望等
 - ⑤整備途中における参加意識：具体的整備（苗木の育成、植樹等）における一般市民の参加意向
- のアンケート調査を実施したものです。

調査方法

(1)調査期間 平成20年7月13日から9月7日まで(9日間) 回収枚数：604枚【園内250枚、園外354枚】

- ①体験学習の森： 7/13(日)、8/7(木)、8/25(月)、9/3(水)、9/7(日) (5日間) 【園内250枚】
- ②勝尾寺園地： 7/22(火)、7/30(水)、8/5(火)、8/7(木)、9/7(日) (5日間) 【園外 96枚】
- ③ビジターセンター： 8/7(木)、8/20(水)、9/7(日) (3日間) 【園外103枚】
- ④箕面大滝： 7/22(火)、8/7(木) (2日間) 【園外 74枚】
- ⑤昆虫館： 7/22(火)、8/20(水) (2日間) 【園外 81枚】

(2)調査方法：各実施場所においてアンケート用紙を直接配布し回収しました。

なお、「園内」とは「箕面体験学習の森」のみで、「園外」とは「箕面体験学習の森」以外の箇所です。

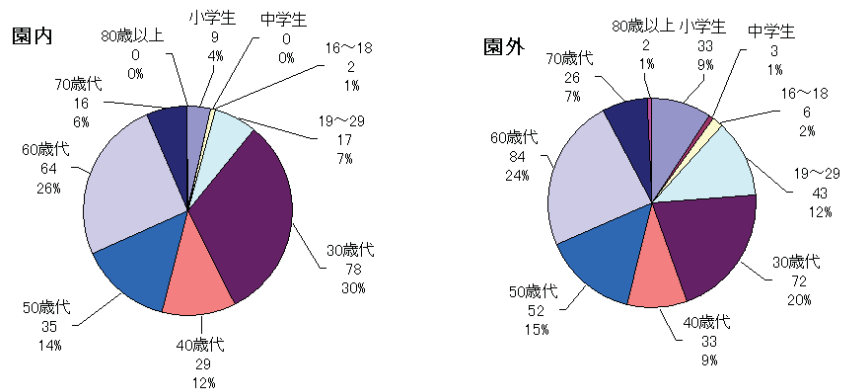
(3)質問項目：別添のアンケート用紙のとおりです。(園内：参考資料1・園外：参考資料2)

集計結果(抜粋)

(1)来訪者の特色

ア 来訪者の年齢

園内、園外ともに「30歳代」「60歳代」が多く、園内では「30歳代」が78人(30%)、「60歳代」は64人(26%)で、園外は「30歳代」72人(20%)、「60歳代」84人(24%)となっている。

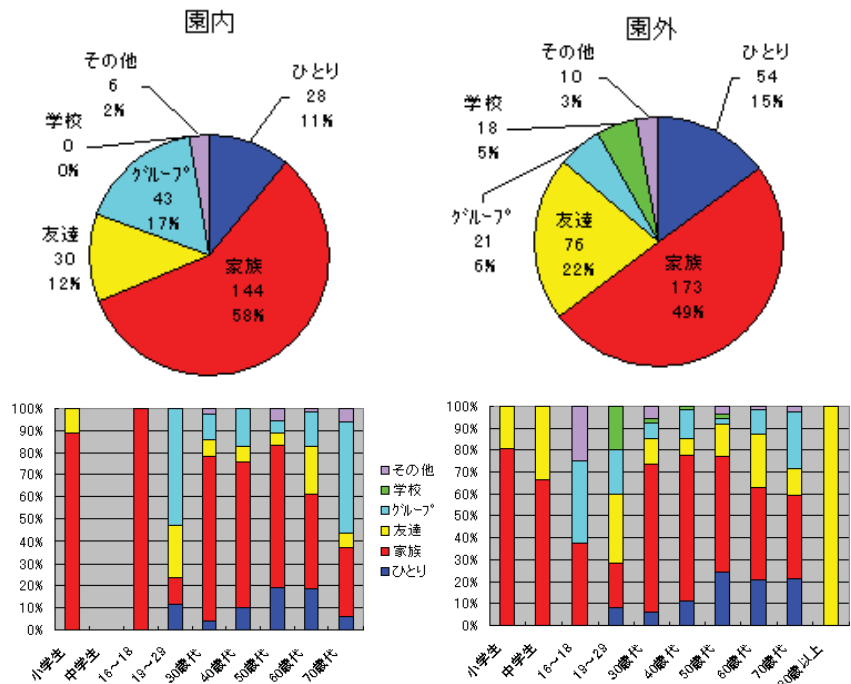


園外での「小学生」の高い数値は、主に昆虫館(33人中20人)でのアンケートによるものである。

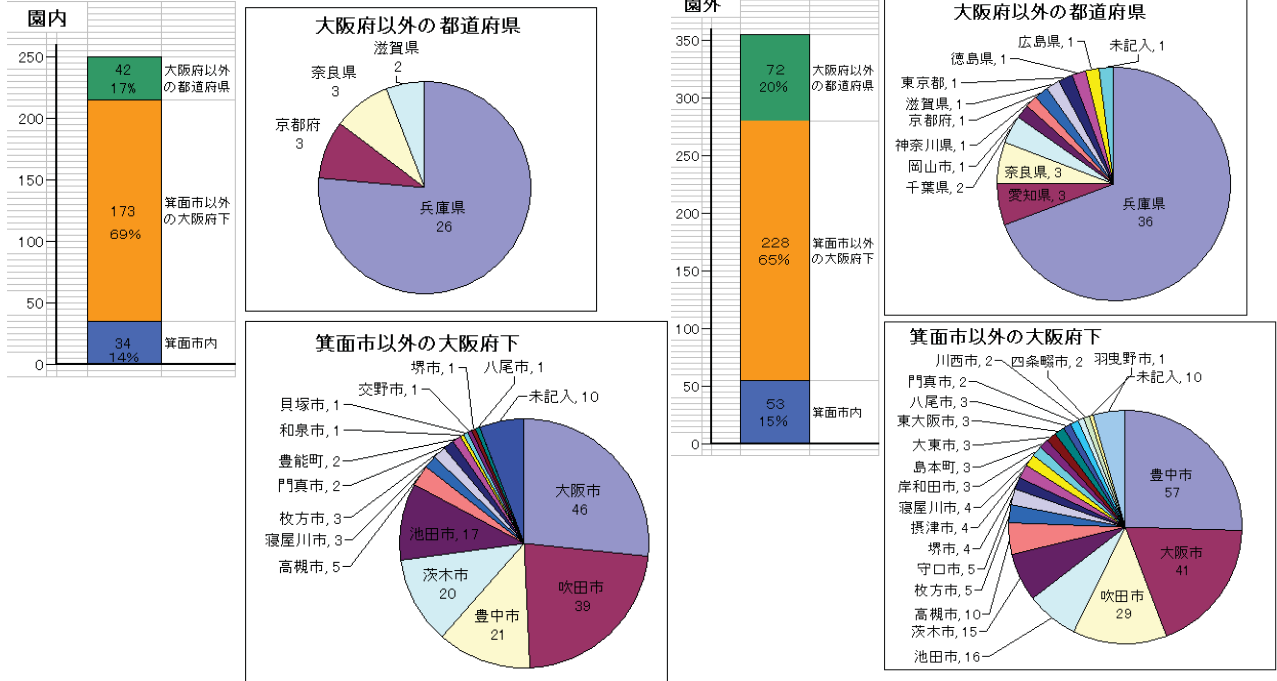
イ 来訪者の構成

「家族」との回答が、園内144人(58%)、園外173人(49%)で最も多い(アンケートに答えられない幼児、小学校低学年を連れた30~40歳代が多く、子育て世代の家族での来訪者が多くみられた)。

園内において、「グループ」が高い値を示しているが、ボランティア活動に参加した会社員24名の回答が含まれており、年齢も「19~29」の17名の内16名がボランティア活動参加者となっていることによる。



ウ どこから来ているか



「箕面市以外の大阪府下」が多く、園内で173人(69%)、園外で228人(65%)であり、箕面市近郊の「大阪市」「吹田市」「豊中市」「茨木市」「池田市」からの来訪者が多く、「箕面市以外の大阪府下」の内、前記の近郊市合計では園内で143人(83%)、園外で158人(71%)である。

大阪府外の都道府県では、兵庫県が多く、園内で26人(76%)、園外で36人(68%)である。なお、昆虫館や箕面滝では、東京や神奈川、徳島からも訪れている。

エ 利用者の基本属性（傾向）

来園者の傾向として、30歳代を中心とした家族単位での来園が多い。また、定年後と思われる60歳代が多く来園している。なお、アンケート回答者とならなかった幼児や小学校低学年などは、データとして現れていない。

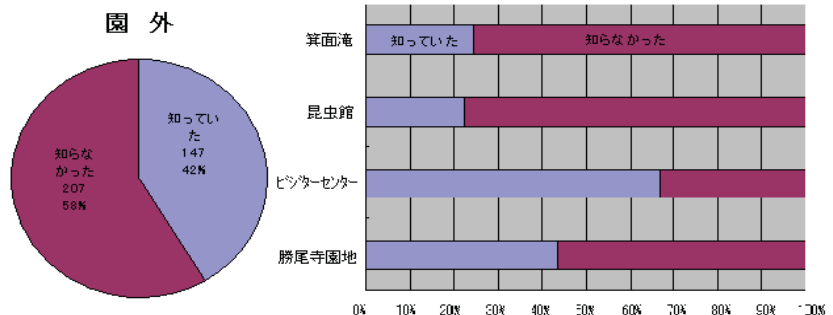
来訪者の約3分の2を箕面市以外の大阪府在住者が占めている（主に大阪市、豊中市、吹田市など近隣の市が多い。大阪府以外では兵庫県がほとんどを占めている）。

(2)「エキスポの森」の認知度

ア 認知度

園外の来訪者の内、大半が「知らない」（207人（58%））と答えている。

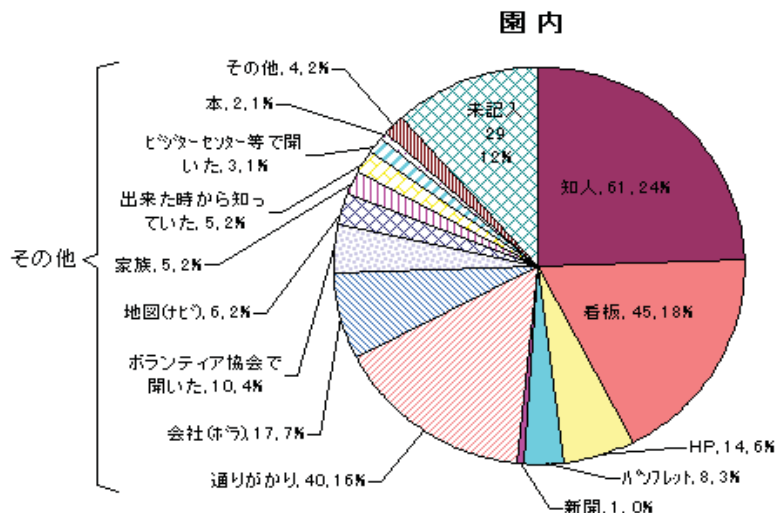
しかしながら、箕面国定公園ビジターセンターでは、「知っていた」との回答が、ビジターセンター全体（103人）の内69人（67%）となっており、勝尾寺園地や昆虫館、箕面滝とは違う傾向を示している。



イ 何で知ったか

「知人」「看板」が合計で106人（42%）となっている。

なお、設問で「その他」と回答した者の内、具体的な記載のあったものを新たな項目として分類した。



ウ 利用者の基本属性（傾向）

園外のみでの質問とした、国定公園来訪者の内、約4割が認識している状況。多くの者に「エキスポの森」知られていないことが伺われる。

ただし、昆虫館、箕面滝、勝尾寺園地では合計で31%しか認識されていないのに対し、ビジターセンター実施したアンケートでは67%が認知しており、ハイカーを中心とした来訪者と見られる。

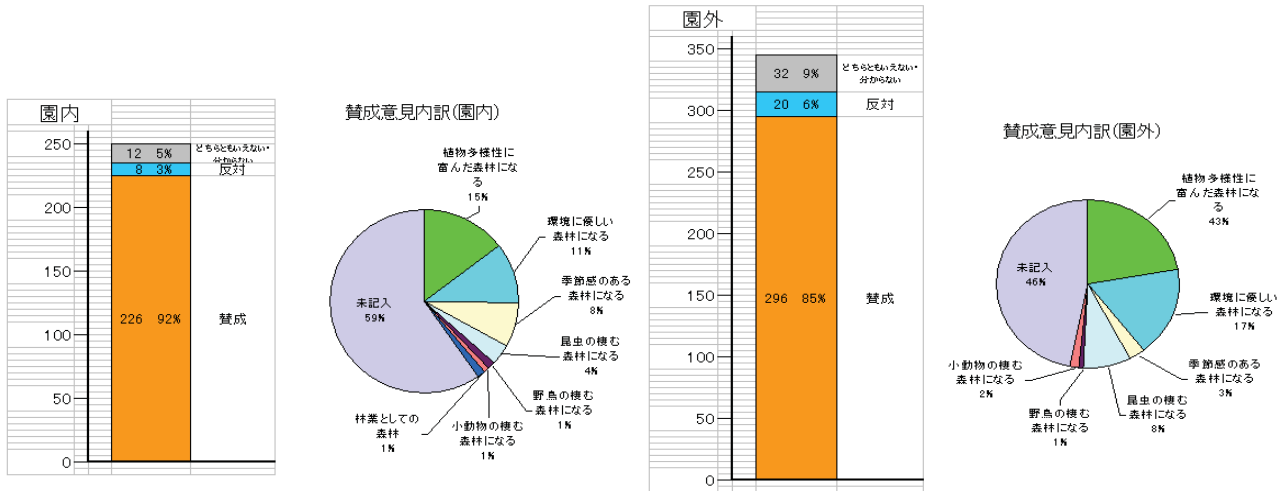
(3) 広葉樹への樹種転換への反応

ア ヒノキを伐って、箕面に自生していたクヌギやコナラ、サクラなどの広葉樹の森をつくる取組

についての賛否

「賛成」と回答した者で園内226人(92%)、園外296人(85%)と概ね広葉樹への樹種転換に理解が示されている。

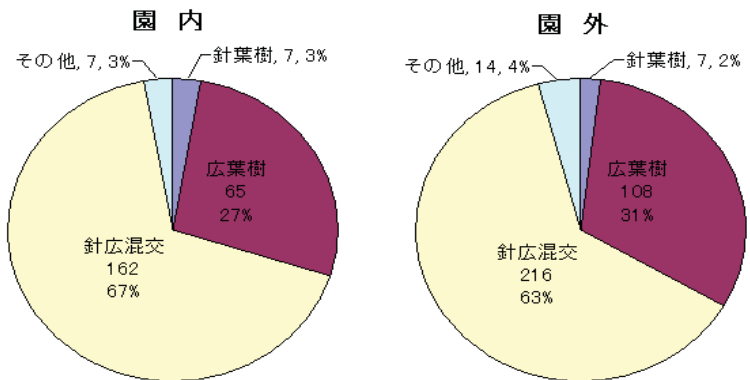
賛成意見では、植物多様性に関するものが多い。なお未記入の多いのが目立つ。



イ 理想とする森

園内、園外での差は見られない。

「針広混交林」が最も多く園内で162人(67%)、園外で216人(63%)。「広葉樹林」が次いで多く、園内65人(27%)、園外108人(31%)であり、合わせると園内227人(94%)、園外324人(94%)で大半を占めている。



ウ 利用者の基本属性(傾向)

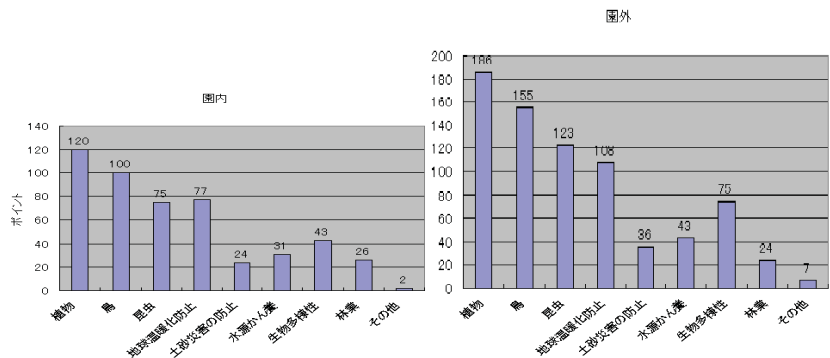
約9割の方が賛成(園内では92%、園外では85%)と答えており、反対は5%であり広葉樹への樹種転換には大多数が好意的。

理想とする森林は、針広混交林が65%、広葉樹林が30%で両者で大半を占めており、広葉樹を主体にした森林への嗜好が高い。

(4) 利用者のニーズの把握

ア 「エキスポの森」へ来た目的

「ハイキング」「森林浴」を合わせて、園内で192ポイント、園外で358ポイントと大半を占めている。

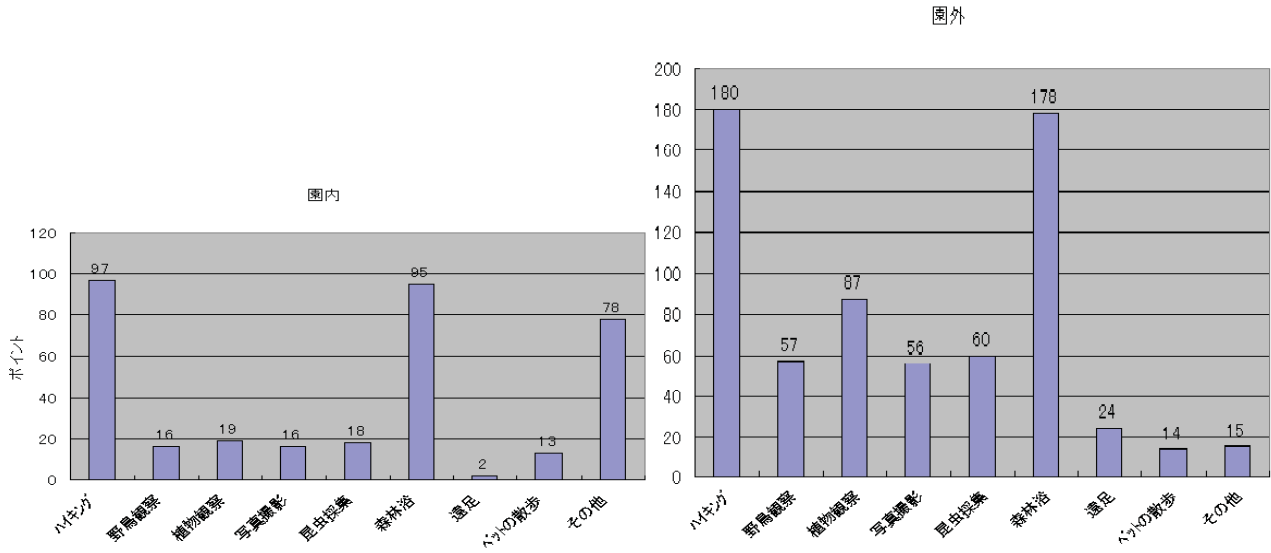


園外では、野鳥観察、植物観察、写真撮影、昆虫採集への回答も多い。

園内「その他」が多いが、78名の内54名がボランティア活動への参加と回答したことによる。

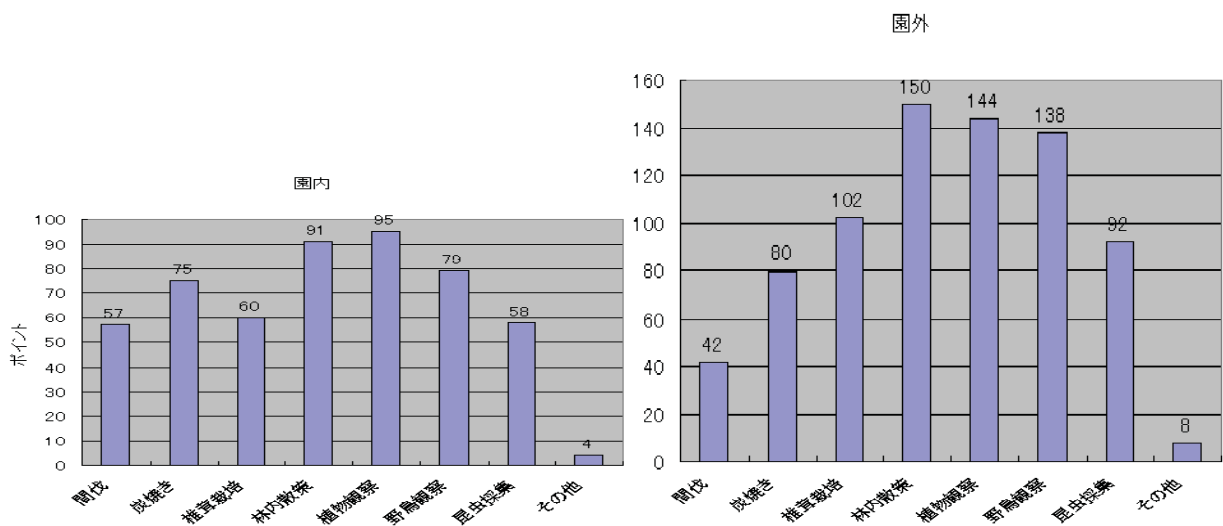
イ 「箕面体験学習の森」でしてみたい学習

「植物の名前や特徴」「鳥など動物の名前や特徴」「昆虫の生態」「地球温暖化防止」「生物多様性」に関心が高い。



ウ 「箕面体験学習の森」でしてみたい体験

「林内散策」「植物観察」「野鳥観察」との回答が多い。また、「炭焼き」「椎茸栽培」などの人気もある。



エ 利用者の基本属性(傾向)

「エキスポの森」へ来た目的(園内)、同じく行きたい目的(園外)では、「森林浴」「ハイキング」といった林内散策が中心。

学習では「植物」「鳥」「昆虫」の観察が多いほか、「地球温暖化防止」「生物多様性」も多い。

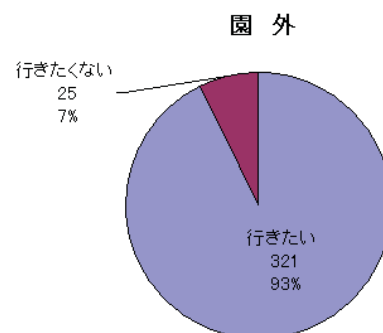
体験は「林内散策」「植物観察」「野鳥観察」が人気が高い。他のメニューに対しても要望が高く、様々なものをいろいろと体験したいと思っている方が多い。小学生からの収集数は少なかったものの、「昆虫採集」への期待が高い。

エキスポの森へ来た理由(園内問9)で「その他」の比率が高いのは、ボランティア活動に参加した社員が「ボラティア(間伐、枝打ち)」として参加したためである。

(5) 整備途中における参加意識の把握

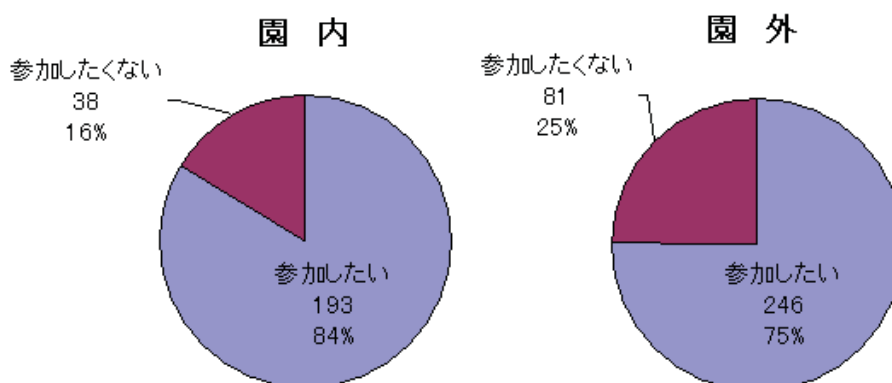
ア 「箕面体験学習の森」が整備されたら行きたいか

園外来訪者のみに質問。「行きたい」との回答が321人(93%)と高い比率を示している。



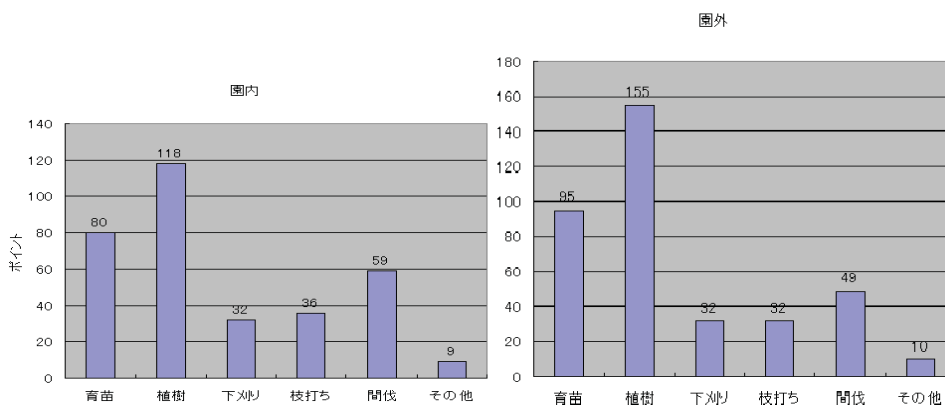
イ 「箕面体験学習の森」の整備行事への参加意欲

「参加したい」が園内193人(84%)、園外246人(75%)と多い。



ウ イで「参加したい」との回答者の参加希望の行事

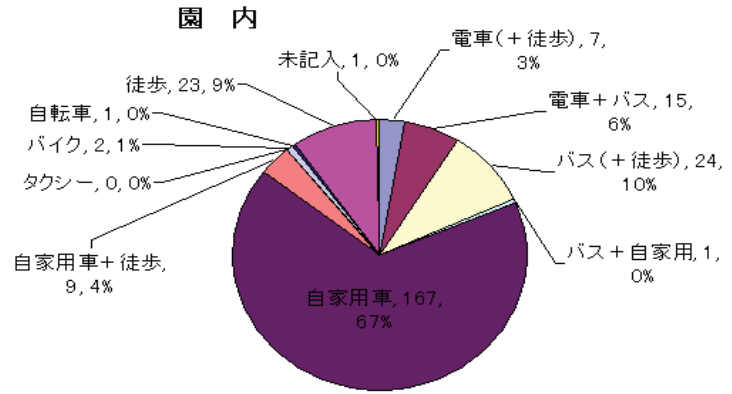
苗木を育てる」「木を植える」を合わせると園内198ポイント、園外259ポイントであり、関心が高い。また、「下刈り」「枝打ち」「間伐」などの森林整備にも参加する意欲がみられる。



エ 「エキスポの森」への交通手段

エキスポの森への公共交通機関でのアクセスがないことから、「自家用車」が167人(67%)と大半を占めている。

「徒歩」も23人(9%)あり、国立公園内の研究路などを通っているハイカーも多いことが伺える。



オ 利用者の基本属性(傾向)

「箕面体験学習の森」が整備された場合、約9割強が「行きたい」と答えており、体験学習の森の整備への期待が高いが、現在の交通手段は約7割が「自家用車」であり、「バス(+徒歩)」「徒歩」と続き、自由意見にはバスなどの交通手段の充実を望む声が多く見られた。

(5) 主な意見・要望

○森林整備肯定意見 (63件：内訳は園内31件、園外32件)

- ・良く手入れされていて、憩いの森として利用しています。喜んでいます。
- ・頻りにこれませんが、何度も来たくなる公園です。これからも期待しています。
- ・都心に住む我々にとり、静かで安全な緑の多い場所に大変あこがれます。
- ・近くにこんな立派な自然があり箕面の森は皆で大切に守りたい。次世代のためにもがんばろう。
- ・時々散歩させてもらってますが楽しいです。より充実することはありがたいです。
- ・スギは特に多すぎて花粉症を引き起こすので間伐には賛成です。

○森林整備慎重意見 (20件：内訳は園内8件、園外12件)

- ・手を入れるのは限定的にして欲しい。
- ・余り手を入れない自然の森。
- ・山を整備しないで自然にしといて下さい。
- ・自然を破壊しないような取組をやってもらいたい。
- ・ある程度の管理は必要だが、できるだけ自然な状態を残してほしいと思う。

○施設整備に関する意見 (18件：内訳は園内5件、園外13件)

- ・飲める水場を作って欲しい。野鳥の集まる水場の整備を。
- ・休憩できるベンチがもう少し欲しいです。古くて根が腐ったものが多いです。
- ・自動販売機、簡単なお店等あれば！！
- ・もう少し子供が遊べる遊具があると良いと思う。キャンプやバーベキューができると良いと思う。
- ・広場を多くつくってほしい。

○その他少数意見 (41件：内訳は園内17件、園外24件)

- ・もっとたくさんの人に知ってもらうためPRして下さい。(同様意見9件(園内5、園外4))
- ・交通手段が確保されればより利用されやすいと思います。(同様意見3件(園内0、園外3))

(参考資料1) 「真面体験学習の森」アンケート 年 月 日
(園 内 用)

エキスポ「90mのお記念の森は、ボランティア団体のお子さんによる森づくりの場としての「ふれあいの森」、学校等が体験林業や森林教室の場として利用していただく「遊々の森」に設定しています。
近畿中国森林管理局では、皆さんの声をお聞きし、より良い森づくりを行っていきたくと考えています。
このたび「真面体験学習の森」とも呼んで、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様な森づくりを行って行くこととしています。
この森づくりの参考とするためのアンケート調査を行っていますので、ご協力をお願いします。

近畿中国森林管理局 真面森林環境保全ふれあいセンター

※該当する番号を○印で囲んでください。()には自由にお書きください。

問1 あなたの性別は ①男 ②女

問2 あなたの年齢は
①小学生 ②中学生 ③16～18歳 ④19～29歳 ⑤30歳代
⑥40歳代 ⑦50歳代 ⑧60歳代 ⑨70歳代 ⑩80歳以上

問3 今日ほどなと来られましたか。
①ひとり ②家族 ③友達 ④グループ・サークル
⑤学校の行事 ⑥その他()

問4 どちらからお越しになりましたか。またどれくらい時間はかかりましたか。
①真面市内(分) ②真面市を除く大阪府内(市町村)(時間 分)
③大阪府以外(都道府県)(時間 分)

問5 真面国定公園へはどれくらいの頻度で来られますか。
①よく来る(毎週のように) ②月に1回程度 ③年に数回程度
④何回か来たことがある ⑤初めて

問6 エクスポの森へはどれくらいの頻度で来られますか。
①よく来る(毎週のように) ②月に1回程度 ③年に数回程度
④何回か来たことがある ⑤初めて

問7 エクスポの森へはどのようにして来られましたか。(何個でもOK)
①電車 ②自家用車 ③タクシー ④バス ⑤バイク ⑥自転車
⑦徒歩 ⑧その他()

問8 エクスポの森のことは何で知りましたか。
①知人 ②パンフレット ③看板 ④新聞 ⑤ホームページ
⑥その他()

-- 真面にもご記入ください。 --

問9 エクスポの森へ来られた目的は何ですか。(何個でもOK)

- ①ハイキング ②野鳥観察 ③植物観察 ④写真撮影 ⑤昆虫採集
⑥森林浴 ⑦遊覧 ⑧ペットの散歩 ⑨その他()

問10 エクスポの森(真面体験学習の森)を整備する場合、あなたが考える「理想の森」のイメージは何ですか。



- ①針葉樹の森(※1) ②広葉樹の森(※2) ③針葉樹と広葉樹の混ざった森
④その他()

※1 スギ、ヒノキなど葉の緑とがった木のことをいいます。幹は真っすぐ伸びて、幹は葉の茂りなどに利用されます。

※2 葉が広く、冬に落ちて落ちるクヌギ、コナラ、サクラなどの落葉広葉樹と、冬でも葉が緑のままのツバキなどの常緑広葉樹があります。

問11 展望台周辺のヒノキ林は、木材として利用できる林齢になっています。そのヒノキを伐って真面につけてたくさん生えていたクスギやコナラ、サクラなどの広葉樹の森をつくらうと計画しています。この取り組みについて どう思いますか。

- ①賛成(理由をお書きください))
②反対()

問12 「真面体験学習の森」で、木を育てたり、植えたりする行事があれば来たいですか。

- ①来たい ②来たくない

問13 問12で「来たい」と答えた方に質問します。どんな行事に参加してみたいですか。(何個でもOK)

- ①苗を育てる ②木を植える ③下草刈り ④伐後とし
⑤間伐(成っている木の抜き伐り) ⑥その他()

問14 「真面体験学習の森」では、どのようなことを学習してみたいですか。(何個でもOK)

- ①植物の名前や特徴 ②鳥など動物の名前や特徴 ③昆虫の生態
④地球温暖化防止 ⑤土砂災害の防止 ⑥水質のかん養 ⑦生物多様性の保全
⑧林業 ⑨その他()

問15 「真面体験学習の森」では、どのようなことを体験してみたいですか。(何個でもOK)

- ①間伐体験 ②伐後体験 ③シヤクケ栽培 ④林内散策
⑤植物観察 ⑥野鳥観察 ⑦昆虫採集 ⑧その他()

問16 何かご意見がありましたら自由にお書きください

-- ご協力ありがとうございました。 --

(参考資料2) 「真面体験学習の森」アンケート 年 月 日
(園 外 用)

明治の森真面国定公園の中に「エキスポ」90mのお記念の森があり、ボランティア団体の皆さんによる森づくりの場としての「ふれあいの森」、学校等が体験林業や森林教室の場として利用していただく「遊々の森」に設定しています。
近畿中国森林管理局では、皆さんの声をお聞きし、より良い森づくりを行っていきたくと考えています。
このたび「真面体験学習の森」とも呼んで、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様な森づくりを行って行くこととしています。
この森づくりの参考とするためのアンケート調査を行っていますので、ご協力をお願いします。

近畿中国森林管理局 真面森林環境保全ふれあいセンター

※該当する番号を○印で囲んでください。()には自由にお書きください。

問1 あなたの性別は ①男 ②女

問2 あなたの年齢は
①小学生 ②中学生 ③16～18歳 ④19～29歳 ⑤30歳代
⑥40歳代 ⑦50歳代 ⑧60歳代 ⑨70歳代 ⑩80歳以上

問3 今日ほどなと来られましたか。
①ひとり ②家族 ③友達 ④グループ・サークル
⑤学校の行事 ⑥その他()

問4 どちらからお越しになりましたか。またどれくらい時間はかかりましたか。
①真面市内(分) ②真面市を除く大阪府内(市町村)(時間 分)
③大阪府以外(都道府県)(時間 分)

問5 真面国定公園へはどれくらいの頻度で来られますか。
①よく来る(毎週のように) ②月に1回程度 ③年に数回程度
④何回か来たことがある ⑤初めて

問6 「エキスポの森」を知っていましたか。
①知っていた ②知らなかった

問7 問6で知っていたと答えた方で、エキスポの森へはどれくらいの頻度で行きますか。
①よく行く(毎週のように) ②月に1回程度 ③年に数回程度
④何回か行ったことがある ⑤一度だけ行った ⑥知っているが、行ったことはない

問8 「真面体験学習の森」が整備されたら行きたいと思いますか。
①行きたい ②行きたくない

問9 問8で「行きたい」と答えた方は、どのようにして行かれますか。(何個でもOK)
①自家用車 ②タクシー ③バス ④バイク ⑤自転車 ⑥徒歩
⑦その他()

-- 真面にもご記入ください。 --

問10 問9で「行きたい」と答えた方は、どのような目的で行きますか。(何個でもOK)

- ①ハイキング ②野鳥観察 ③植物観察 ④写真撮影 ⑤昆虫採集
⑥森林浴 ⑦遊覧 ⑧ペットの散歩 ⑨その他()

問11 あなたが考える「理想の森」とはどのような森ですか。



- ①針葉樹の森(※1) ②広葉樹の森(※2) ③針葉樹と広葉樹の混ざった森
④その他()

※1 スギ、ヒノキなど葉の緑とがった木のことをいいます。幹は真っすぐ伸びて、幹は葉の茂りなどに利用されます。

※2 葉が広く、冬に落ちて落ちるクヌギ、コナラ、サクラなどの落葉広葉樹と、冬でも葉が緑のままのツバキなどの常緑広葉樹があります。

問12 「真面体験学習の森」の一部でヒノキを伐って、真面につけてたくさん生えていたクスギやコナラ、サクラなどの広葉樹の森をつくらうと計画しています。この取り組みについて どう思いますか。

- ①賛成(理由をお書きください))
②反対()

問13 「真面体験学習の森」で、木を育てたり、植えたりする行事があれば行きたいですか。

- ①行きたい ②行きたくない

問14 問13で「行きたい」と答えた方に質問します。どんな行事に参加してみたいですか。(何個でもOK)

- ①苗を育てる ②木を植える ③下草刈り ④伐後とし
⑤間伐(成っている木の抜き伐り) ⑥その他()

問15 「真面体験学習の森」では、どのようなことを学習してみたいですか。(何個でもOK)

- ①植物の名前や特徴 ②鳥など動物の名前や特徴 ③昆虫の生態
④地球温暖化防止 ⑤土砂災害の防止 ⑥水質のかん養 ⑦生物多様性の保全
⑧林業 ⑨その他()

問16 「真面体験学習の森」では、どのようなことを体験してみたいですか。(何個でもOK)

- ①間伐 ②伐後 ③シヤクケ栽培 ④林内散策
⑤植物観察 ⑥野鳥観察 ⑦昆虫採集 ⑧その他()

問17 何かご意見がありましたら自由にお書きください。

-- ご協力ありがとうございました。 --

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策

趣旨

三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯では、昭和30年代に伊勢湾台風等大型の台風の影響により大量の亜高山性針葉樹林(トウヒ・ウラジロモミ等)が倒れたため、林内に多量の光が入り込み、急速にミヤコザザが増加し、ニホンジカの好適環境が出現したことによりニホンジカが増加し始めました。

現在、増えすぎたニホンジカとその他の複合的な要因により森林の衰退が進んでいます。

三重森林管理署管内の大杉谷国有林でも、高木の枯損やササ原化が進行するとともに、スギ、ヒノキの植栽地においては植栽木はもとより林床植生が消失し、一部で土砂流出や林地崩壊現象が見られる。

また、天然林においても高木層の消失により生物多様性が著しく損なわれるなど、国有林内に設定している「大杉谷森林生態系保護地域」も含めて森林生態系への影響が深刻化しています。

このため、ニホンジカによる森林被害の対策とニホンジカ保護管理計画を一体的に進めていく必要があることから、当センターと、国有林を所管している三重森林管理署が、環境省、三重県、奈良県、関係町村、NPO等と連携して小規模防鹿柵、金網(ラス巻き)等の実証試験を行うこととし、「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」(以下「被害対策指針」という。)を作成することとする。あわせて、ニホンジカによる森林被害地における森林の再生及び保全のためのモデル事業を実施することとしています。

事業内容

1 場所

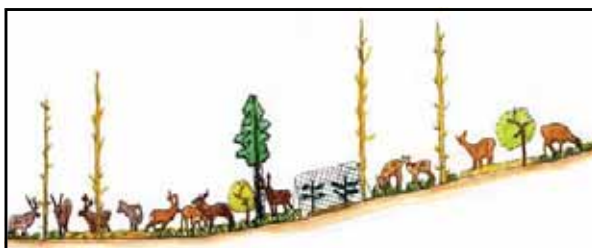
三重県多気郡大台町 大杉谷国有林

2 内容

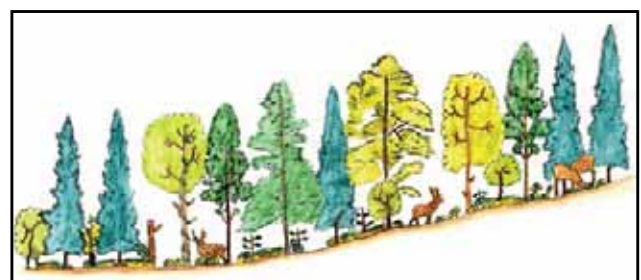
「被害対策指針」の作成

外部の有識者を含む「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」を設置し、以下の項目を総合的に検討して「被害対策指針」を作成する。

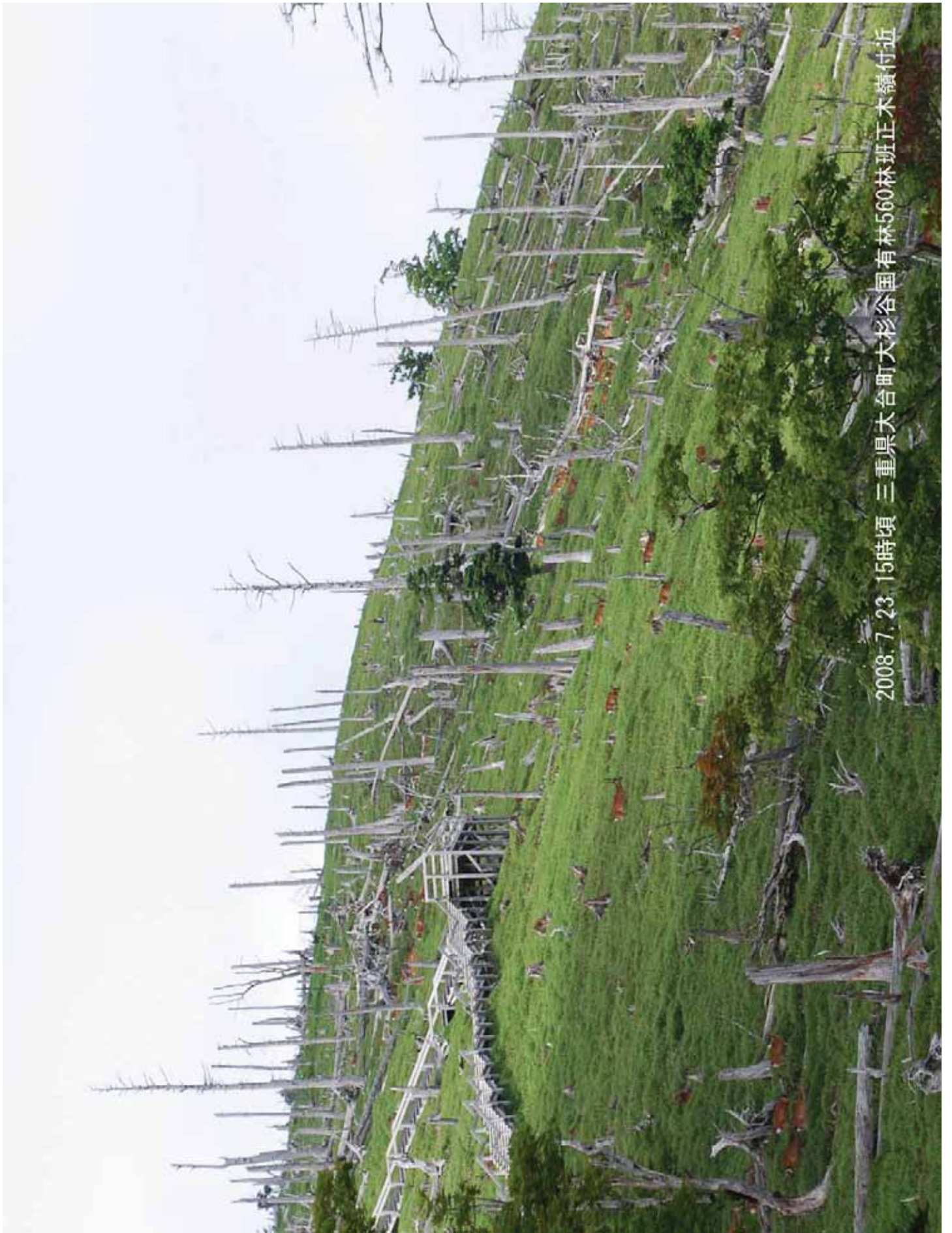
- (1) 「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」会合の開催
- (2) 共同試験地の調査及び維持
- (3) 森林の再生及び保全のためのモデル事業の実施
- (4) 普及啓発の実施
- (5) モニタリング調査



現在










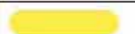
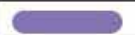

将来

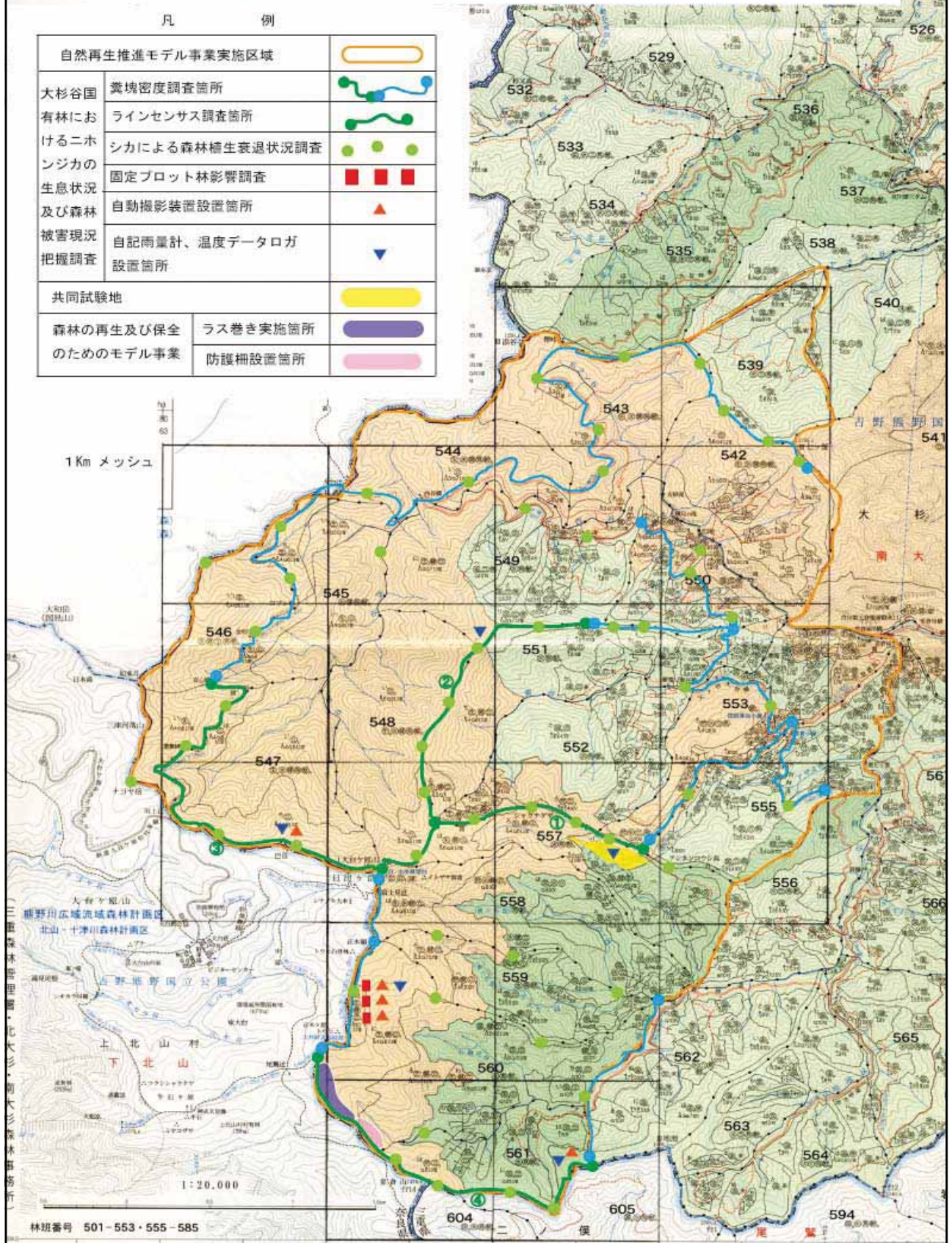


2008.7.23.15時頃 三重県大台町大杉谷国有林560林班正木嶺付近

自然再生推進モデル事業実施区域〈大台ヶ原地域(大杉谷国有林)〉

凡 例

自然再生推進モデル事業実施区域		
大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害現況把握調査	糞塊密度調査箇所	
	ラインセンサス調査箇所	
	シカによる森林橋生衰退状況調査	
	固定プロット林影響調査	
	自動撮影装置設置箇所	
共同試験地	自記雨量計、温度データロガ設置箇所	
	共同試験地	
森林の再生及び保全のためのモデル事業	ラス巻き実施箇所	
	防護柵設置箇所	



「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」会合

ワーキングチーム委員（五十音順、敬称略）

【学識経験者委員】

氏名	所属・職名
佐野 明	三重県 林業研究所 主幹研究員
柴田 勲弼	名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授（座長）
高田 研一	NPO法人 森林再生支援センター 常務理事
高橋 裕史	(独) 森林総合研究所関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員
日野 輝明	(独) 森林総合研究所関西支所 野生鳥獣類管理チーム長
前迫 ゆり	大阪産業大学大学院 人間環境学研究科 教授

【地元関係者委員】

氏名	所属・職名
中世古太輔	三重県猟友会 会長
森 正裕	NPO法人大杉谷自然学校 事務局長
山本 勝征	林業関係者[大台町町議会議員、元校長]

【オブザーバー】

三重県、奈良県、三重県大台町 環境省近畿地方環境事務所 (独) 森林総合研究所林木育種センター関西育種場
--

大杉谷国有林(三重県)におけるニホンジカによる森林被害対策に着手 (第1回ワーキングチーム会合)

三重県と奈良県境の大台ヶ原及び隣接する大杉谷国有林(大台町)においては、増えすぎたニホンジカとその他の複合的な要因により、トウヒ、ウラジロモミ、スギ、ヒノキ等の森林の衰退が進んでいます。

このため、5月22日、23日、大台ヶ原ビジターセンター及び現地において、大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を検討するため、学識経験者、地元関係者、関係行政機関、国有林

職員によるワーキングチームの第1回会合を開催しました。

初日の会合においては、当センターから、本年2月開催した準備会合における質問に対する回答、モデル事業の実施方針・実施計画の説明及びモニタリング調査等の検討を行いました。

委員からは、「実施方針に、ニホンジカによる食害により生物多様性が損なわれることを記載した方がよい」、「ニホンジカによる森林植生衰退状況調査は3年に1回となっているが、毎年ということも考えてはどうか」などの意見等がありました。

2日目は、ニホンジカによる被害により、トウヒ、ウラジロモミの衰退が進んでいる箇所を全員で確認のうえ、モニタリング調査箇所を決定しました。

なお、平成20年度から現地調査を実施し、4年後を目途に、ニホンジカによる森林被害対策指針を作成することになりました。

平成20年度の調査概要

1. 糞塊密度調査
ニホンジカの生息密度を把握するための調査
2. ラインセンサス調査
ニホンジカの生息密度に関する季節変化等を把握するための調査
3. ニホンジカによる森林植生衰退状況調査
事業区域を1kmメッシュで18区画設け、各区画内でランダムに3箇所調査
4. 固定プロット森林影響調査
(1) 正木ヶ原周辺に30m四方のプロットを3箇所設定し、立木及び稚幼樹を調査
(2) 生育している稚幼樹の内、半数は3m四方の防護柵で囲み、残りの半数は囲わずに比較
5. その他
自動撮影装置の設置及び自記雨量計等による微気象観測



正木ヶ原における検討の様子



ニホンジカによる食害木

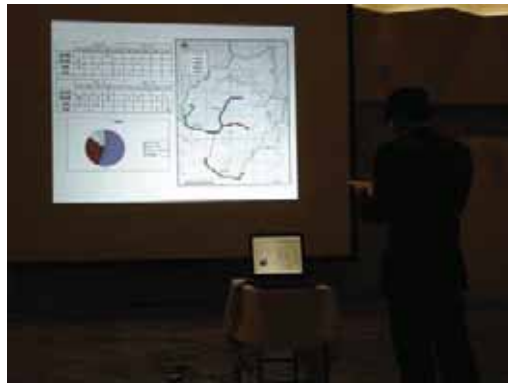
モニタリング調査結果概要報告及び平成21年度事業計画の検討 (第2回ワーキングチーム会合)

2月6日(金)、三重県津市において、第2回ワーキングチーム会合を開催しました。

最初に、地元関係者委員のうち「NPO法人大杉谷自然学校」については大西氏から森氏への交代が了承されました。次に当センターから、第1回会合の論点整理及びこの論点整理に基づく平成20年度実施計画等の一部改訂について説明し、次にモニタリング調査結果概要について受託業者から説明を行いました。最後に平成21年度実施計画について提案しました。

委員からは、「ラス巻きは根張り部分は行わなくてもよいのではないか」、「糞塊密度調査及びラインセンサス調査のコースについては、人が沢山通行する歩道はあまり対象としない方がよいのではないか」、「モニタリング調査結果のとりまとめについては、後日もう一度打合せを行った方がよいのではないか」などの意見が出ました。

意見等を踏まえ、ワーキングチーム設置要領に基づき、委員数名による専門部会を設置し、モニタリング調査結果のとりまとめ等を行うこととなりました。



自動撮影装置による生息状況調査結果(ニホンジカ以外の哺乳類)

ニホンジカ等8種類の哺乳類が確認できました。

1 大杉谷国有林547林班 巴岳

① ツキノワグマ 2008.9.28, 0:49



② ネズミ類



③ テン



④ ノウサギ 2008.10.19, 21:23



⑤ イノシシ 2008.10.18, 17:05



2 大杉谷国有林561林班

① キツネ

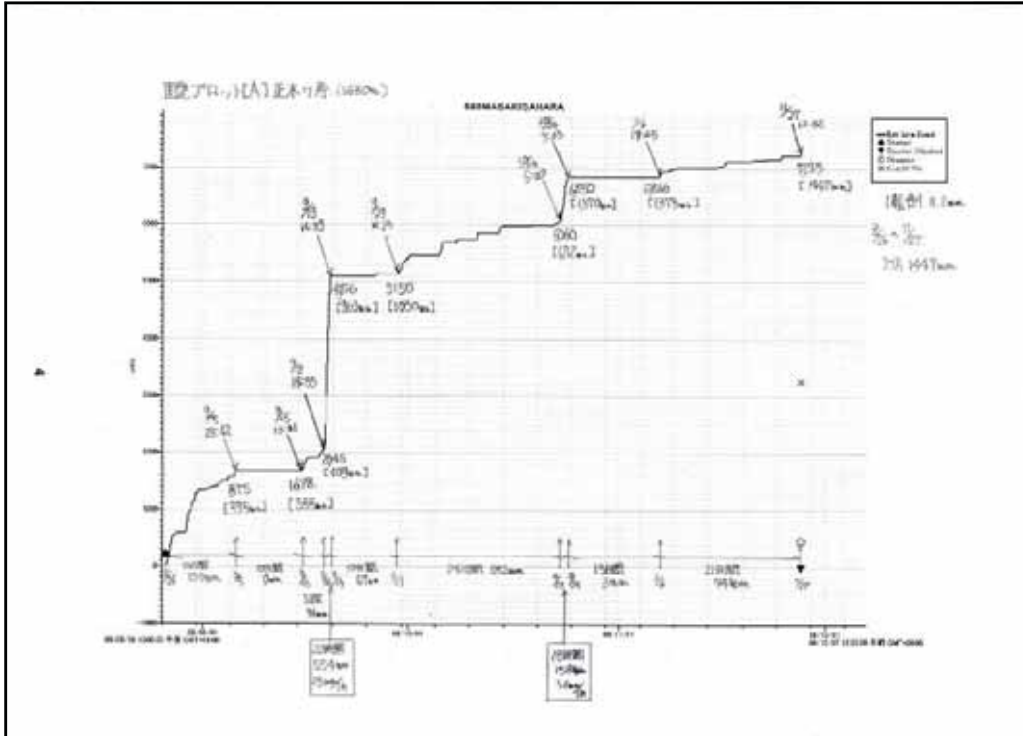


② ニホンザル 2008.9.15, 10:45



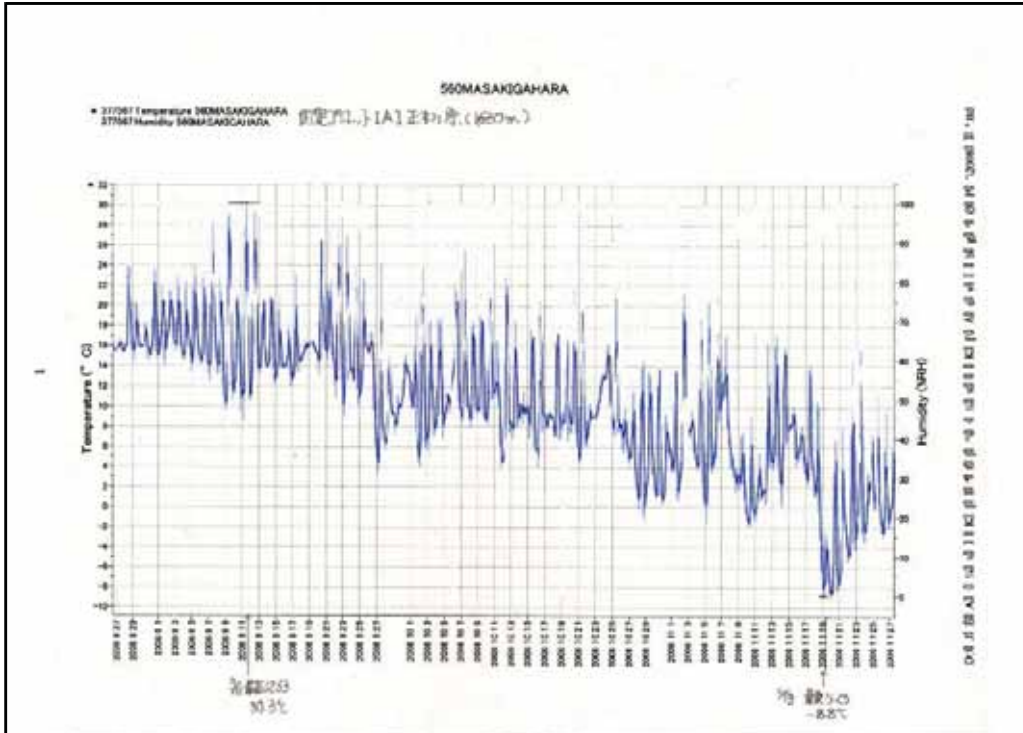
微気象の観測(雨量、温度データログによる観測記録)

1 固定プロット (正木ヶ原) 海拔 1630m の雨量



- ① 1時間最大
9/18 ~ 19
22時間 54mm/h
- ② 93日間
1,447mm
16mm/日

2 固定プロット (正木ヶ原) 海拔 1630m の気温



- ①最高気温
30.3°C <9/11>
- ②最低気温
- 8.8°C <11/19>

推進体制(NPO等との連携の推進)

大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議

- 環境省 近畿地方環境事務所
 - ↳大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
 - ↳森林生態系部会
 - ↳植生保全対策 WG(両部会合同)
 - ↳ニホンジカ保護管理部会
 - ・委員：有識者等
 - ・関係機関：近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、上北山村、猟友会、森林組合
- 近畿中国森林管理局
 - ↳大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム
 - ・委員等：学識経験者、地元関係者、森林管理局署職員
 - ・オブザーバー：環境省近畿地方環境事務所、三重県、奈良県、大台町、紀北町、上北山村、川上村
(独)森林総合研究所・林木育種センター関西育種場
- 三重県
- 奈良県
- 大台町
- 紀北町
- 上北山村
- 川上村

年月日	内 容	主催者等	場 所
H20. 6. 9～10	伊勢源流大台ヶ原の森現地検討会	三重森林管理署	大杉谷国有林
H20. 7. 18	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 森林生態部会への参画	環境省近畿地方環境 事務所	奈良県奈良市
H20. 11. 10～11	箕面森林環境保全ふれあいセンター 運営推進懇談会	近畿中国森林管理局	大杉谷国有林
H20. 12. 11	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議	環境省近畿地方環境 事務所	奈良県奈良市
H20. 1. 30	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会への参画	環境省近畿地方環境 事務所	奈良県奈良市
H20. 2. 1	シンポジウム「大台ヶ原 大杉谷を鹿害から守る」 基調報告及びパネラー	NPO法人森林再生 支援センター	三重県大台町

伊崎国有林の森林植生回復対策・カワウ対策支援 関係機関等との連携

年月日	内 容	主催者等	場 所
H20. 6. 5・6	中部近畿カワウ広域協議会第1回幹事会への参画 カワウフォーラム出席	環境省・滋賀県	滋賀県庁 竹生島
H20. 8. 19	第1回カワウ総合対策計画検討協議会への参画	滋賀県	滋賀県庁
H21. 1. 29	中部近畿カワウ広域協議会第2回幹事会への参画	環境省・滋賀県	
H21. 2. 26	第2回カワウ総合対策計画検討協議会への参画	滋賀県	
H20. 3. 28	カワウ夜間追放大作戦（ねぐらのカワウ光撃）	近畿中国森林管理局	伊崎国有林

滋賀森林管理署への支援

年月日	内 容	場 所
H20. 4. 22	カワウ被害対策試行（鎌付き測棒を使った巣落し）	伊崎国有林
H20. 4. 24・25	森林影響調査（営巣区域・分布調査、ベルトトランセクト営巣数調査）	
H20. 5. 9	カワウ被害対策試行（掛矢たたきによる追い払い【5/7～7/3】）	
H20. 5. 29	カワウ被害対策試行（植栽木と試験地調査）	
H20. 8. 4	カワウ被害対策試行（ビニール紐張りによる追い払い）	
H20. 9. 18	営巣木等調査	
H20. 12. 24	ねぐら調査	
H21. 3. 10	平成20年度カワウワーキンググループ会合	滋賀森林管理署



カワウの営巣状況[伊崎国有林]（白く見えるのはカワウの糞）

掛矢たたき

森林環境教育への支援

森林環境教育推奨事例集の作成

趣旨

森林環境教育の機会を子ども達をはじめとする国民に広く提供し、森林の有する多面的機能や木材利用の意義等に対する理解と関心を深めるため、国有林においては、教育関係機関やNPO等との連携のもと、学校等が体験活動等を実施するためのフィールドの提供、森林管理局・署等による森林・林業体験活動、情報提供や技術指導等を推進しているところです。

森林環境教育は、多様な主体により様々な手法で行われているところであり、これらの中には、森林管理署等での森林環境教育活動の参考になるものも数多いと考えられます。

このため、近畿中国森林管理局管内を中心に各府県や森林ボランティア団体が行っている森林環境教育手法や教材を収集・整理し、専門家などの意見を聞きながら推奨事例を選定し、これらをまとめた推奨事例集を作成することとしています。

実施内容

- (1) 森林環境教育手法の収集・整理
- (2) 事例選定会議の開催
- (3) 推奨事例集の作成

事例選定会議

委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属・職名
立花 禎唯	高槻市立大冠小学校 教諭
波多野達二	京都教育大学附属京都小学校 非常勤講師、林業家
山下 宏文	京都教育大学 教授

森林環境教育推奨事例集作成の流れ

平成20年度

2月中旬まで

事例の収集

- ・ 都道府県
- ・ 森林ボランティア団体
- ・ 森林管理署等

事例の絞り込み

- ・ 100事例程度

3月下旬

第1回 事例選定会議

- ・ 小学校の低・中・高学年ごとに選抜・分類

平成21年度 (予定)

事例の整理

- ・ 第1回事例選定会議で選抜された事例の整理

6月上旬

第2回 事例選定会議

- ・ 小学校の各学年・科目ごとに分類

推奨事例集(案)作成

7月上旬

第3回 事例選定会議

8月上旬

推奨事例集 完成

- ・ 森林管理署等
森林ボランティア団体
都道府県 等への普及

当センター主催及び共催による活動

森林環境教育セミナー

8月5日(火)、大阪府箕面市の箕面国有林において箕面市、豊中市、池田市の小中学校等の初任の先生等(26名)を対象とした「森林環境教育セミナー」を開催しました。

このセミナーは、学校教育における森林環境教育の導入を推進することを目的として、箕面市教育委員会との共催により、京都大阪森林管理事務所の協力を得て、以下のプログラムにより実施しました。

オリエンテーション(15分)

①講義(60分)

②間伐体験(90分)

昼食(30分)

③自然観察を兼ねたネイチャーゲーム(90分)

④間伐材を用いた丸太切り、木エクラフト(60分)

⑤ふりかえり(45分)



山下宏文氏(京都教育大学教授)

「森林環境教育の重要性と進め方」について講義



間伐体験



自然観察を兼ねたネイチャーゲーム

山下宏文氏の講義概要は以下のとおりです。

1. 森林環境教育の重要性とあり方

＊森林環境教育の背景

- ・日本の危機的な森林状況とその打開
- ・地球温暖化の進行と温暖化効果ガスの排出削減
- ・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」(環境教育推進法)の施行
- ・こどもの心の問題への取り組み

2. 学校教育における「森林」の扱い

＊求められる教材とは

- ・美しい森林を実感できること
- ・現実の森林の様子が具体的にとらえられること
- ・生活と森林との「かかわり」が具体的にイメージできること
- ・日本人と森林とのかかわりが見えること
- ・体験をうながすことができること

3. 森林環境教育の三つのポイント

- ・「体験の場」としての森林
→「森林」が豊かな体験を提供する場となること
- ・「知る場」としての森林
→「森林」が正しい知識を得る場となること
- ・「かかわる場」としての森林
→「森林」がかかわりをつくりあげていく対象となること



間伐材を使った丸太切り



参加した先生からは、「講義もわかりやすく、体験学習もアイデアに富んでいた」、「初めての体験で仕事の意義が少しでも実感できた」、「自分が知らないことをクイズ形式で教えていただいたのが良かった。子どもに対する指導でも使えそう」、「自分たちで伐った木を使っての木工が良かった。愛着がわいた」、「クラスの子どもを連れてきたい」などの感想が聞かれ、今後、児童・生徒に対する森林環境教育の推進が期待されます。

夏休み親子木工教室

7月29日(火)、近畿農政局、京都大阪森林管理事務所、当センターの共催による「夏休み親子木工教室」を京都農林水産総合庁舎で開催しました。

夏休みを利用して、子どもが木に親しみ、木の良さを知ってもらうために行ったものであり、一般からの応募により、小学生の親子30組73名が参加し、スギ端材や松ボックリ、ドングリ、木の枝などを使って木工品づくりを行いました。



参加者からは、「親子共に木にふれ夢中になるひとときであった」、「初めて使う工具もあり、子どもにとって良い体験となった」などの感想が聞かれました。

森林管理事務所への支援

奈良市内の幼稚園児を対象とした森林教室

5月17日(土)、奈良森林管理事務所は、大亀谷国有林(奈良市)において、ひかり幼稚園と「遊々の森協定」を締結した主旨説明会を開催するとともに、園児及び保護者合わせて130名を対象に森林教室を行いました。

なお、森林教室においては、当センターも支援を行いました。



養護学級の児童を対象とした森林教室

8月23日(土)、京都大阪森林管理事務所は、養護学級に在籍する児童(67名)を対象とした森林教室を、大阪府箕面市において開催し、当センターは支援を行いました。

1人の児童がヒノキの丸太切りを行ったのをきっかけに10名以上が親子で丸太切りに挑戦しました。

また、円板やスギ端材に木の枝や松ぼっくり、ドングリなどを貼り付けていろいろな動物や人形を作ったり、木の枝でキーホルダーを作るなど、個性的な作品が多く見かけられました。



箕面市内の幼稚園児を対象とした森林教室

11月16日(日)、京都大阪森林管理事務所は、箕面市立かやの幼稚園において、園児119名と保護者を対象として、ツルを使ったリース作りや円板、松ぼっくり、ドングリなどを使った木工品づくりを行い、当センターは支援を行いました。



箕面市内の小学生を対象とした森林教室

2月18日(水)、京都大阪森林管理事務所は、箕面国有林「遊々の森 きらきら」において、箕面市立中なか小学校の5年生93名を対象として森林教室と林内散策を行い、当センターは支援を行いました。

森林教室では、森林のはたらきについて学習し、その後、広葉樹・針葉樹それぞれ1本ずつ樹高と直径を測り、樹木の炭素固定量を導き出しました。

また、林内散策では、樹名板を使った木の名前当てクイズなどでたくさんの木の名前を覚えました。児童からは、「山にはおもしろい名前の木がたくさんあって楽しかった」、「字を書くことの出来る葉っぱがあって驚いた」、「ヒノキの裏側はY(わい)の字に見えるので、『Y(わい)はヒノキや』と覚えた」などの感想が聞かれました。



樹木の名前・特徴の説明



樹木の直径の測定

その他

林野庁長官賞・全国木材組合連合会会長賞を受賞

～平成20年度国有林野事業業務研究発表会～

11月27日(木)、林野庁で開催された「平成20年度国有林野事業業務研究発表会」において、当センターが平成17年度から平成19年度までの3カ年間取り組んだ、子供の発達段階に応じた森林環境教育プログラムの作成について発表したものです。

今回の発表では、18年度に作成した「森林環境教育プログラム(子ども向け)」は、体験を通して、森林の役割と人とのかわりについて、自らの知識や知恵として獲得するというモデルプログラムの実践の様子、学びの構造、普及等について、さらに、平成19年度に作成した「森林環境教育プログラム(大人向け)」は、直接的な体験に加え、森林に関わる人々からインタビューを通じて新たな知識を学び取るというモデルプログラムの実践の様子、参加者へのアンケートを通じた理解度等について行ったものです。



今回の発表では、18年度に作成した「森林環境教育プログラム(子ども向け)」は、体験を通して、森林の役割と人とのかわりについて、自らの知識や知恵として獲得するというモデルプログラムの実践の様子、学びの構造、普及等について、さらに、平成19年度に作成した「森林環境教育プログラム(大人向け)」は、直接的な体験に加え、森林に関わる人々からインタビューを通じて新たな知識を学び取るというモデルプログラムの実践の様子、参加者へのアンケートを通じた理解度等について行ったものです。

※森林環境教育プログラムの「子ども向け」及び「大人向け」は、当センターのホームページに掲載していますのでご活用下さい。(ホームページ <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>)

当センター主催及び共催による活動

年月日	対象者名	人数(名)	実施内容
H20. 7. 29	京都市内の小学生と保護者等	73	紙芝居、木工教室
H20. 8. 5	箕面市、豊中市、池田市の小・中学校の初任教諭	26	「森林環境教育の重要性と進め方」についての講義、間伐体験、自然観察、丸太切り、木エクラフト

森林管理事務所への支援

年月日	対象者等	人数(名)	実施内容
H20. 5. 17	学校法人ひかり学園ひかり幼稚園 園児、保護者	130	森林教室、林内散策
H20. 7. 11	京都教育大学附属小学校5年生、中学校2年生	52	森林教室
H20. 8. 23	箕面市内の養護学級の児童、保護者	128	丸太切り、木エクラフト
H20. 11. 16	箕面市立かやの幼稚園 園児	119	木エクラフト
H21. 2. 18	箕面市立中小学校 5年生	93	森林教室、林内散策
H21. 3. 23	清風学園清風中学校 2年生 (大阪市天王寺区)	20	林業及び森林の機能についての講話、体験林業

森林ボランティア活動への支援

森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業

趣旨

国民の3人に2人はボランティア運動への参加意欲をもっているなど、国民の社会参加意識の高まりに加え、ボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まり、近年、多様な主体による森林づくり活動が活発化しています。

これまで近畿中国森林管理局においては、これらの森林ボランティアへの支援活動として、各森林ボランティア団体のリーダーとなるべき人材の育成を目的に、平成12年度から「森林ボランティアリーダー養成スクール」を実施し、基礎的な安全管理に関する知識・技術に加え、植生、土壌、育林、森林計画、林産、木材利用など森林・林業の基礎分野の講義・実習等を行い、延べ150余名のリーダーを養成してきました。

ふれあいセンターでは、これまで実施してきた養成スクールの修了生へのアンケート調査や意見交換会を行い、これまでの養成スクールの実施内容等を検証し、今後、各森林管理署等における実施の参考となるような体系的なモデルカリキュラムを作成するものです。

実施内容

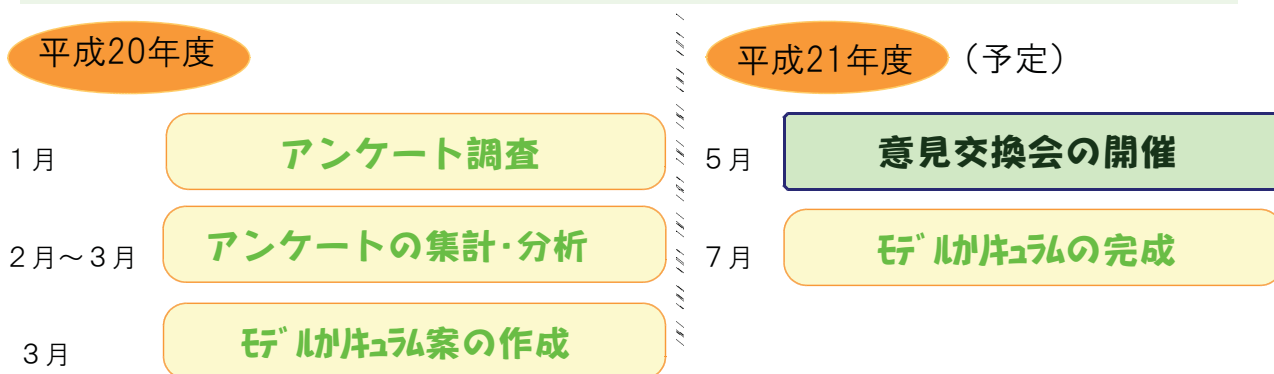
- (1) 森林ボランティア養成スクール修了生へのアンケート調査
- (2) アンケートの集計・分析
- (3) モデルカリキュラムの作成

アンケートの主な意見・要望

養成スクール修了生から67%の回答があり、以下の意見・要望が多く見られました。

- ・ 実習の時間を、もっと多くとって欲しい。
- ・ 間伐材を利用した木工品づくり。
- ・ カリキュラムに竹林の整備、管理を加えて欲しい。
- ・ 刈り払い機の取り扱い、実習。

森林ボランティア養成スクールモデルカリキュラム作成の流れ



グループ対抗 里山デジカメ選手権

テーマ:身近な森林(もり)の再発見

里山と呼ばれる農村や街の周辺にある身近な森林は、近年における林業の低迷やエネルギーの石油依存などを背景として、手入れがなされずに荒廃が進んでいます。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、このような里山などの保全・再生を重要な活動の一つとしています。

平成19年度から実施している「グループ対抗里山デジカメ選手権」は、今日急速に普及したデジタルカメラを用いて、里山などの動植物の姿や保全、再生活動の一瞬を切り撮った3枚の組写真を募集し、優れた作品を顕彰することを通じて、里山の保全・再生に貢献しようとするものです。

本年度は、「身近な森林(もり)の再発見」をテーマとして、募集したところ、東は神奈川県から南は沖縄県まで21府県から、学校、森林ボランティア団体、企業、家族など多彩なグループによる157組の作品を寄せていただきました。

これらの作品については、第一次審査により30組が選定され、その後最終審査が行われました。

最終審査会は、11月2日(日)に、滋賀県立琵琶湖博物館において、写真家の今森光彦氏と農学博士の只木良也氏及びフリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員にお迎えし、公開による作品の展示とグループ代表による発表を行っていただきました。その結果、最優秀賞(林野庁長官賞)1組、琵琶湖博物館長賞1組、優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)7組が決定しました。

グループ対抗里山デジカメ選手権入選・応募作品展示

入選作品、応募作品については、大阪市(近畿中国森林管理局の森林のギャラリー)、京都市、滋賀県、草津市、岡山市において展示を行いました。

平成19年度入選作品展示

- ① 中国四国農政局(岡山市) 平成20年 9月16日～10月3日
- ② 操山公園里山センター(岡山市) 平成20年10月4日～11月4日



平成20年度入選・一次審査選定・応募作品展示

- ① 滋賀県立琵琶湖博物館(草津市) 平成20年11月3日～11月14日
- ② 近畿農政局(京都市) 平成21年 1月5日～ 1月30日
- ③ 近畿中国森林管理局(大阪市) 平成21年 3月9日～3月19日



平成20年度 グループ対抗 里山デジカメ選手権

最優秀賞（林野庁長官賞）

「絵本の世界 森林の中」



平成20年度
グループ対抗 里山デジカメ選手権
身近な森林の再発見!! 入選作品集

主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
共催 滋賀県立琵琶湖博物館/ (財)水と緑の環境保全機構・里地ネットワーク
協賛 (株)ニコン/エプソン販売 (株)
後援 朝日新聞大阪本社/ (財)森林文化協会/ 大阪放送局

詳細については「平成20年度グループ対抗里山
デジカメ選手権入選作品集」をご覧ください。

その他

箕面森林環境保全ふれあいセンター運営推進懇談会

趣旨

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林野を活用し、地域住民、NPO等が行う自然再生活動、生物多様性の保全等や森林の有する多面的機能の発揮についての理解を深めるために、教育関係者等が行う森林環境教育等に対して技術的指導その他支援等の取組を行う拠点として設置されました。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当ふれあいセンターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、ふれあいセンターの効率的な運営を推進することとしています。

テーマ

- ボランティアによる森林整備活動に関すること
- 自然再生に関すること
- 森林環境教育支援活動に関すること
- 情報の受発信に関すること

懇談会委員（五十音順、敬称略）

- ・ 金井久美子（特定非営利活動法人地球緑化センター事務局次長）
- ・ 前田 隆司（毎日新聞社編集委員）
- ・ 山下 宏文（京都教育大学教授）

平成20年度第1回懇談会

11月10日（月）、11日（火）、三重県と奈良県の県境にある大台ヶ原（大杉谷国有林）及び川上村において、当センターの効率的な運営を推進するため、NPO法人地球緑化センターの金井氏、毎日新聞社の前田氏、京都教育大学の山下教授の3名の有識者を委員とした今年度第1回目の運営推進懇談会を開催しました。

1日目は、ニホンジカによる森林被害が拡大している大台ヶ原において、当センター職員により、ニホンジカによる樹皮の剥皮により森林植生が衰退化している状況や白骨化したトウヒ、ウラジロモミの状況等を説明し、今年度から取り組んでいるラインセンサス調査、糞塊密度調査、固定プロット森林影響調査、微気象観測等について説明しました。



各委員は、樹木が大量に枯損又は消失しササ原化している様子、稚幼樹の食害を目の当たりにして、

驚きの声を発し、ニホンジカによる森林衰退の実態を深刻に受け止めていました。

2日目は、川上村において懇談会を実施し、当センターの活動状況について、それぞれの担当職員より今年度の取組状況等について説明をしました。

各委員からは、ニホンジカによる森林被害対策については、「環境省と近畿中国森林管理局の方針の統一、共通理解が重要であること」、「被害の実態をもっと国民に伝えるべきではないか」、「ニホンジカの被害等に関するシポジウムを開催してはどうか」、森林環境教育優良事例集の作成については、「学校にとっても貴重な資料となると考えているので、選定会議のメンバーには小中学校の先生も入ってもらいたい」、「子どもたちがクヌギやコナラをドングリから育てる取組は興味深い」などの意見や提案がありました。これらの貴重な意見等を今後のセンターの活動に反映させていきたいと考えています。



(奈良県吉野林業地視察)

会議終了後、樹齢250年生のスギ人工林において、川上村森林組合参事の大辻昭夫氏から、吉野林業の特徴と課題について話を伺いました。

大辻氏は、吉野林業の課題として、①殆どの山は村外の人が所有しており、自分の山を見に来ることは殆ど無いため、境界が分かりにくくなってきている、②現在、皆伐は皆無に等しく殆どが間伐で、伐採木はヘリコプターで搬出しているが、木材価格が安いのでヘリコプター集材で採算が合うところは限られている。③川上村は作業道が少ないため、現在作業道の作設を進めているが、地形が急峻なため思うように進んでいない。④大径材の需要はごく僅かで、大径材を伐採できる技術者も僅かしかない、等をあげられました。



平成20年度第2回懇談会

平成21年3月2日(月)、京都市内で平成20年度第2回懇談会を開催しました。

当ふれあいセンターから、平成20年度活動実績及び平成21年度活動計画(案)について説明を行った後、意見交換を行いました。

委員から、森林環境教育について、「森林環境教育等によく取り組んでいることがこの資料で分かった」、「実際小学校等が森林教室を実施したい時、どこに聞けばいいかわからないとの声を聞くので、官民の壁を乗り越えたシステムがほしい」、グループ対抗里山デジカメ選手権について、「最終審査会により多くの人に来てもらうためには、季節的にツリー作りなどの体験コーナーも組み合わせてみてはどうか」等の意見等がありました。

これらの貴重な意見等を様々な角度から検討し、今後のセンターの活動に反映させていきたいと考えています。

各種活動

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H20. 4.11	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会による植生調査	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面国有林
H20. 4.24	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面市役所
H20. 6.19	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面市役所
H20. 6. 9 ・10	伊勢源流大台ヶ原の森現地検討会	大台町、森林管理局、三重署他	大杉谷国有林
H20. 7.11	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会幹事会	大阪府、箕面市他	箕面市役所
H20. 7.21	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面市役所
H20. 7.13	森林ボランティア団体等円卓会議	京都府、森林ボランティア団体	京都市
H20. 8.21	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面市
H20. 8.23	シンポジウム「民家が語る里山の価値」への参加		京都府宮津市
H19. 8.25	京都府内国有林野等所在市町村長協議会	京都府、国有林野等所在市町村	京都市
H20. 8.29	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会総会	大阪府、箕面市他	箕面市
H20. 9.19	FM 京都三条ラジオカフェ出演（「グループ対抗里山デジカメ選手権」、「オオクワガタの棲める森づくり」）		京都市
H20.10. 1	FM 箕面出演（「箕面体験学習の森」等について）		箕面市
H20.10.11 ・12	森林の市（支援）		森林管理局及び周辺
H20.11.13 ・14	森林・林業交流研究発表会（「グループ対抗里山デジカメ選手権」について発表）		森林管理局
H20.11.26 ～28	国有林野事業業務研究発表会（「森林環境教育プログラム作成への取組」について発表）		林野庁

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H21. 1.15	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面市
H21. 2.26	「森林・林業の普及に関するネットワーク」会議への出席	森林ボランティア団体 他	森林管理局
H20. 3. 5	国有林モニター会議への出席	国有林モニター	森林管理局
H21. 3.12	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会箕面自然休養林部会	大阪府、箕面市、森林ボランティア団体	箕面市
H21. 3.20 ・21	箕面市イベント「みどり 生き生き みのお 生き生き 体験フェア」への参加	箕面市、みのお山麓保全委員会他	箕面市

主な活動

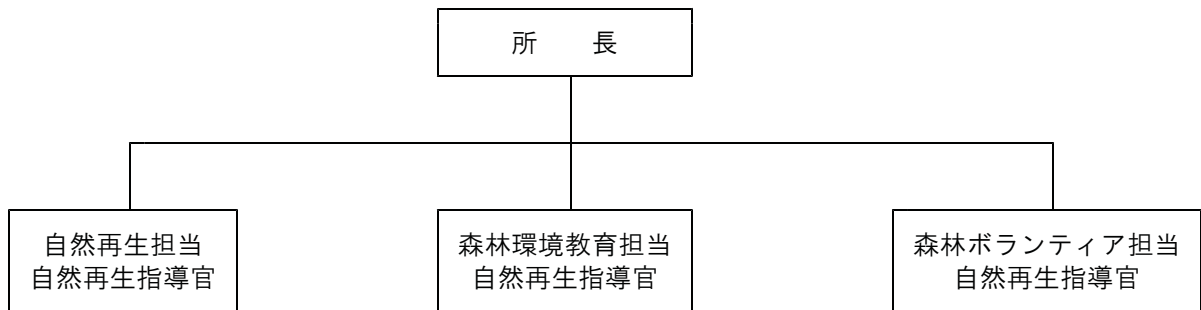
主な活動としては、自然再生への取組、森林ボランティア活動や森林環境教育活動への支援などです。

活動フィールド

大阪府と京都市にある国有林が主な活動フィールドです。

なお、近畿中国森林管理局管内全域において、ニーズ把握を行い、必要に応じてそれらのニーズを踏まえた活動を展開しています。

役割分担



センターへの行き方



地下鉄烏丸線丸太町駅から徒歩約10分
市バス府庁前から徒歩約7分

平成21年3月

箕面森林環境保全ふれあいセンター（林野庁・近畿中国森林管理局）

602-8054 京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風呂町102
京都農林水産総合庁舎内

電話：075-414-9049 ファックス：075-414-9029

ホームページ <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>